

2021年 同朋新聞より転載

真宗大谷派 (東本願寺) 天満別院

# 六字城

715号  
2024  
6/1

大阪市北区東天満1-8-26  
06-6351-3535  
代表者 輪番・奧林 曉

## ジャータカについて

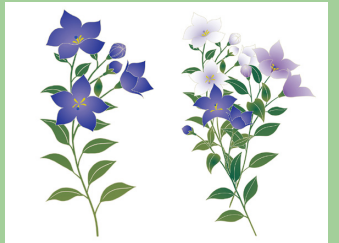
ジャータカとは一言で言えばお釈迦様の前生物語集です。この人生を生まれて死ぬまでの一生のみと捉えず、無限の過去から永劫の未来に流れる命のひと時と考え、現世は過去世の行為の結果であり、現世は来世の原因となると古代インドでは考えられていました。

お釈迦様がどのように悟りを開かれ、生涯人々の悩みに応えられたのは何代にもわたる過去世でよほど立派な行為を積まれた結果と考えられました。それらを五四七話にまとめた経典がジャータカです。

よく知られた「月の兎」はジャータカの代表的な物語です。森をさまよっていた飢えた老人を助けようと兎、猿、山犬、カワウソたち仲間が食べ物を探してきます。あいにく食べ物を見つけれなかった兎が「どうぞ私を食べてください」とたき火に飛びこみます。するとかねて兎の善行が本物かどうかを確かめたいと老人の姿になって現れた帝釈天が本来の姿を現し、たき火から兎を助け出し「飢えた老人を助けるために自分の命を捧げる偉大な慈悲の行為を全世界の人々へ永遠に伝えよう」と満月に兎の姿を

## 法要・行事予定

6月			7月		
5日	同朋の会	(13時)	6日	同朋の会推進員講座	(14時)
8日	天満別院合唱団「みのり」	(14時)	11日	従如上人御祥月御命日	(8時)
12日	闍如上人御遠夜・常永代経	(14時)	12日	闍如上人御遠夜・常永代経	(14時)
13日	闍如上人御命日 兼日中	(7時45分)	13日	闍如上人御命日 兼日中	(8時)
	責任役員会	(13時)	20日	天満別院合唱団「みのり」	(14時)
	常議会	(14時45分)	25日	宣如上人御祥月御命日	(8時)
	院議会	(15時)	27日	定例法話	(13時30分)
15日	同朋大会(難波別院)	(10時)		墨林 浩 師	(第2組 光照寺)
18日	存如上人御祥月御命日	(7時45分)		宗祖聖人御遠夜	
20日	門徒総会	(13時)	28日	宗祖聖人御命日 兼日中	(8時)
21日	聖典講座	(14時)		法話：輪番 奧林 曉	
24日	夏の御文法要	(13時30分)			
	山名 彰英 師	(第22組 因超寺)			
	「御文をいただく」				
27日	宗祖聖人御遠夜	(14時)			
28日	宗祖聖人御命日 兼日中	(7時45分)			



文・渡邊愛子さん 紹介  
 仏典童話作家。元京都光華女子大学非常勤講師。1946年生まれ。新宿高校(定時制)卒業後、大谷大学および同大学院博士課程で原始仏教を学ぶ。真宗大谷派寶樹寺(岩手県)門徒。  
 著書『仏典童話』『仏典の星ぼし』他  
 絵・臂美恵さん 紹介  
 仏教漫画家。公益社団法人日本漫画家協会会員。1954年生まれ。京都精華短期大学美術科マンガクラス卒業。佛敎大学佛敎学科、同国文学科卒業。浄土真宗本願寺派西園寺(広島県)門徒。  
 著書『絵のこころ仏のこころ』他

## 今月の伝道掲示板

苦をまぬがれるには  
 その苦を生かしていく  
 道を学ぶことです  
 — 蓬茨祖運 —

## 編集後記

「極楽の食卓は常に空席だ」そんな言葉を見つけた。極楽のものは自分の満足だけに収まらず貧しい元へ赴きま。これを「自利利他円満」と言います。浄土という場所があるならそこは空席で、仏となり私たちを常に支えて共にいてください。時に地獄のように感じる苦しい時もいつも側に仏さまはいらっしゃるんだということを改めて思う。

描いたということです。

ここでは兎がお釈迦様の前生です。このように過去世では神々や、あらゆる立場の人間、あらゆる種類の動物、時には植物の姿となってお釈迦様の前生が語られます。生きとし生けるものすべてがお釈迦様の前生として描かれています。これはあらゆる生命は無量大のひとりのうちの存在であることを表しています。ジャータカに登場するお釈迦様はボーディサッタ(菩提薩多、略して菩薩)と書かれています。原始経典の中で菩薩という言葉が最初に現れるのがジャータカで菩薩思想の原点と考えられています。

菩薩は悟りを求めて修行する存在で、自利利他円満を宗とします。困難に遭遇している相手を見逃せず、最善の方法で解決する物語が多く、命を捧げることがしばしばあります。これは相手の痛みが他人事ではなく自身の痛みであり、それを解決するために自らの命を捧げるほかならぬ切羽詰まった事態の場合です。命を捧げるばかりでなく忍耐力や智慧などによって問題を解決していきます。

近頃、スーパーヒーロー的な菩薩ばかりでなく、煩惱熾盛の菩薩のジャータカに眼がとまり、浄土思想の種子ではないかと思ひ始めています。次号から五話をご紹介します。いただきます。

\*文・渡邊愛子さん 絵・臂美恵さんの紹介は4面に記載しております。

寺町という歴史ある地域に  
根ざした老舗葬儀社

(株) 天満花重

〒530-0041  
大阪市北区天神橋 3-4-6  
電話 (06)-6351-3875  
FAX (06)-6351-6260

～ご縁を大切に～

日下念珠店

〒600-8174  
京都市下京区烏丸通花屋町下る  
TEL075-351-6325 FAX075-341-5255  
https://www.kyo-kusaka.jp



# 夏の御文

ゲノオフミ

# 法要

**日時** 6月24日(月)  
午後1時30分  
～3時30分

**講題** 「御文をいただく」  
ご講師 山名彰英師(因超寺)

### ご講師からのメッセージ

『御文』は、本願寺第8代蓮如(れんにょ)上人(1415-1499)が浄土真宗の教えについて平易な文章で書かれたお手紙であり、これを各地に送ることで布教を行なっておられました。

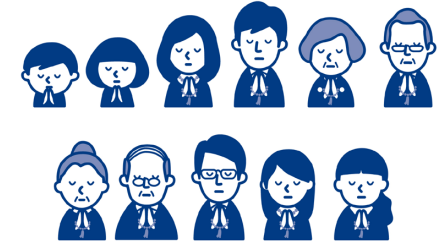
そのお手紙を蓮如上人の孫である円如(えんにょ)上人(1491-1521)が多数の『御文』の中から特に重要な85通を選定され、その中から80通が5冊の本にまとめた『五帖御文』、残りの5通は『夏の御文』4通と『御俗姓(ごぞくしょう)』1通です。

夏の御文をいただいておりますと、度々『安心』という言葉が出てまいります。この「安心」という言葉を日常的によく使う意味は「心配事がない、気持ちが安定した状態」となり、一般的には「あんしん」と読みますが、仏教ではこれを「あんじん」と読みます。『安心』の本来の意味は、「仏法によって揺るぎない、何ものにも侵されない心の安定を得ること、その境地」とあり浄土真宗においては、阿弥陀仏の本願によって必ず極楽往生するという確信を得ることを安心決定(あんじんけつじょう)とって大事にしています。

天満別院で毎朝拝読されている御文ですが、その意味合いを皆様とご一緒にいただけたらと思います。

## Q&A

### 百回忌ってしなげなければならないの？



**答え**  
百回忌はほとんどの場合、生前にお会いしたことのない方のご法事になります。見過ごされることも多いですし、お勤めしているご家庭の方が少ないと思います。  
ただ、お会いしたことがないからとはいえず、あなたと無関係の方ではありません。百回忌の年にあたっては、先代の方のひいおじいさんなのか、ひいおばあさんなのか、さらに先代の方なのか分かりませんが、その方が人生を全うしたからこそ私がこの世に誕生することができました。

ご法事は「しなげなければならないこと」ではないと思います。百回忌はしなげなければならないのか？という間の裏には、「本当にするの？できればしたくないな」という気持ちがあるのでしょうか。そして「どちらでもいいですよ」という答えを期待していません。  
一周忌でも七回忌でも五十回忌でも、家族が亡くなったことを縁として、今の自分のあり方を問い訪ねる場が法事だと思えます。亡き人のために法事を勤める、ということから、自分や家族のために法事の間を整える、と考えてみてはいかがでしょうか。もしかしたら法事の間でしか会えない方や、そこでしか話せない話もあるのではないのでしょうか。  
自分が今生きていることのために間違いなく関わっているご先祖の百回忌です。もし過去帳をめぐって百回忌にあたっていただくと気づいたのであれば、お手次のお寺さんへご相談ください。  
(15組 本傳寺 間野 淳雄)

## 報告

### 天満別院輪番 歓送迎会 開催

去る5月17日(金)にザ・リッツ・カールトン大阪におきまして、責任役員 澤田見氏、谷康司氏、八十島義郎氏を発起人として輪番歓送迎会を開催いたしました。たくさんのご参加をいただき、盛大な一時を過ごすことができました。ありがとうございます。



歓送迎会 会場の様子



武宮前輪番と奥林新輪番

### 5月 定例法話

5月29日(水) 御講師に27組 妙蓮寺 楠樹 章磨師をお迎えし、講題「あるがまま」についてお話いただきました。

師は、「これはこれ災難をのがるる妙法にて候」と言う禅宗の僧侶である良寛の言葉を紹介され、このことは「無為自然」と言われ親鸞聖人の『自然法爾』とは共通するものがあると話されました。また念仏に出遇うということ、は、生きる方向が見えてくることであり今の現実を受け止めることでありこれが「ありのまま」に生きるということであると話されていました。



27組妙蓮寺 楠樹 章磨師